



上手な野菜の育て方

シュンギク



1 栽培時期と品種

○ 種まき ■ 収穫

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	品種
晩秋まき	■	■	■	■	■	■	■	■	■	○	○	○	中葉

2 栽培上の注意点

- ◆種は2~3ヶ月間休眠するので、古種子を使うか新種は水に浸した後、冷蔵庫に1週間程度入れてから使う。
- ◆低温(5°C以下)は生育が著しく抑制される。冬期は寒害(0°C以下で葉先が枯れる)防止のためビニール被覆をする。

3 本田肥料・畝づくり

- ◆種まきの約10日くらい前に、1坪(3.3㎡)当たり、牛フン堆肥7kg、苦土セルカ500g、野菜化成肥料250gを全面に施す。追肥は葉の色が薄いようであれば、野菜化成肥料70g程度か、液肥(リトルミー)を500倍~1000倍に薄め条間に施す。(肥料が葉にかかると葉焼けを起こす場合があるので注意する)
- ◆畝幅は90cmくらいで整地する。

4 種まき

- ◆種の量は1㎡当たり8~9ml必要である。畝に2~3条の浅いまき溝を3cm幅程度に切り、十分灌水した後、バラ条まきにする。シュンギクの種は発芽する前に光線を好むので覆土は薄くし軽く鎮圧する。その後雨にたたかれないよう、白の寒冷紗で畝全面を覆い、発芽後直ちに取り除く。

5 間引き

- 【1回目】本葉1~2枚の時に株間3cmに間引
- 【2回目】本葉3~4枚の時に株間6cmに間引(抜き取り収穫する場合ここまで)
- 【3回目】本葉7~8枚の時に株間15cmに間引(摘み取り収穫する場合ここまで)

6 収穫

【抜き取り収穫の場合】

地際から側枝が次々と伸びるので草丈20cmほどになったら根から株ごと抜き取り収穫する。

【摘み取り収穫の場合】

草丈20cmくらいで下の葉4~5枚を残し主枝の先端を摘心することで主枝の成長がとまり、次々とわき芽が出てくるのでそのわき芽を摘み取る。

7 病害虫

炭そ病

カビの一種。胞子が飛び散って伝染する。発病した株は取り除く。

アミスター-20フロアブル
2000倍

収穫前日まで

総使用回数2回

アブラムシ

繁殖力が強いので最初の飛来を防ぐのが重要。黄色に誘引される性質があるので黄色の粘着テープを株の周囲に設置すると効果的。

アディオン乳剤
4000倍

収穫21日前まで

総使用回数2回

参考

シュンギクは連作障害があるので1~2年間あける

